法　学　第　３４　号
平成 23 年 4 月 6 日

各私立中学校長
各私立高等学校長
私立特別支援学校長
各私立専修学校長
各私立各種学校長
様

岩手県総務部法務学事課私学・情報公開課長

東日本大震災に係る内閣総理大臣及び文部科学大臣からのメッセージについて

このことについて、別添写しのとおりメッセージがありましたので、お知らせします。

なお、各学校におかれましては、本メッセージを始業式や校内放送等で活用されるなど、関係者に活用されるなど特段の御配慮をお願いします。

【担当】私学振興担当　小野寺
電話 019-629-5041　FAX019-629-5049
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：hiro-onodera@pref.iwate.jp
この通知は下記のアドレスからもダウンロードできます。
http://www.pref.iwate.jp/view.rbz?cd=25963&ik=0&pnp=14

新学期を迎える皆さんへ

皆さん、入学、進級おめでとうございます。

皆さんは、この４月、希望に満ちた春を迎えるはずでした。

しかし、この春は、私たちにとって、とてもつらい春になってしまいました。

御存じのように、３月１１日、あの未曾有の大地震と津波が日本を襲ったのです。

皆さんの中にも、ご家族を亡くされたり、あるいはいまも避難所から学校に通ったりしている生徒さんがいることでしょう。

避難所の中では、皆さんが率先して、お年寄りや身体の不自由な方を助け、掃除をしたり、食事の準備をしたりしてくれているという話をたくさん聞いています。皆さんがボランティアで活躍しているという知らせも、たくさん届いています。本当にありがとう。

直接被災をした皆さん。皆さんは、十代のもっとも人間が成長する時期に、この大きな試練に立ち向かわなければならなくなりました。

いま抱えているすべての悲しみや不安から、完全に逃れることはできないかもしれません。でもいつか、皆さんが、その悲しみと向き合えるようになる日まで、学業やスポーツ、芸術文化活動やボランティア活動など、何か一つでも夢中になれるものを見付けて、この苦しい時期を乗り越えていってもらえればと願います。

学校は、あらゆる面で、皆さんが、この逆境を乗り越えていくためのサポートをしていきます。

災害にあわなかった地域の生徒の皆さんにも、お願いがあります。

どうか、皆さんの学校にやってくる、避難してきた仲間たちを温かく迎えてあげてください。すぐ近くに、そういった友達がいなくても、遠く離れて不自由な生活をしている同世代の友達を、同じ仲間、友達だと思ってください。そして、被害を受けた仲間の声に耳を澄ましてください。

この大震災を通じて、日本国と日本社会は、大きな変化を余儀なくされます。この大震災からどうやって国を立て直していくのか。自然と共生して生きてきたはずの日本社会が、その本来の姿を取り戻すためには何が必要なのか。

もちろん復興の過程では、「がんばろう」という元気なかけ声が必要です。しかし、それと同時に、新しい社会、新しい人間の絆（きずな）を作っていくために、大きな声にかき消されがちになる、弱き声、小さな物音にも耳を澄ましてほしいのです。

東北が生んだ詩人宮沢賢治は、科学と宗教と芸術の力で、冷害・凶作の多かったこの東北地方の農民を、少しでも幸せにしようと考え、そのことに一生を捧げました。

どうか、他人の意見もきちんと受け止めながら、自分で合理的な判断ができる冷静な知性を身に付けてください。しかしそれだけではなく、他人のために祈り涙する、温かい心も育んでください。そして、芸術やスポーツで人生を楽しむことも忘れないでください。

宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』には、こんな言葉があります。

「僕、もうあんな暗(やみ)の中だってこわくない。きっとみんなのほんとうのさいわいをさがしに行く。どこまでもどこまでも僕たち一緒に進んでいこう」

賢治の言う「ほんとうのさいわい」とは何でしょう。この大きな災害と混乱の中で、皆さんに、このことを考えて欲しいのです。

もしも、それを皆さんが本当に真剣に考えてくれるなら、きっと皆さんは、どこまでもどこまでも、一緒に進んでいけるはずです。そしてその先には、もっともっと素晴らしい新しい日本の国の姿があるはずです。

忘れないでください。一緒に進んでいくのは、決して日本人だけではありません。今回の東日本大震災では、世界中からたくさんの支援が寄せられています。また、この非常時にあっても秩序正しく、理性を失わない日本人の姿に、世界中が驚き賞賛の声を揚げました。私たちは、世界と共にいます。

原子力発電所の事故に対して、危険をかえりみずに立ち向かう消防士や自衛官、電力会社の人たちの姿。各地の被災地で、救命救急活動にあたった警察官や医療関係者、そして何より、本当に命がけで皆さんを守ってくれた学校の先生たちの姿を忘れないでください。そして、みなさんも、もっともっと身体を鍛え、判断力を養い、優しい心を育んで、他人のために働ける人になってください。

日本の未来は、皆さんの双肩にかかっています。

あなたたちのその笑顔、ひたむきな表情が、いま家族や地域の人々を支えようと懸命にがんばっている大人たちに、勇気と希望を与えています。

私たちも、全力で、皆さんの支援に取り組みます。

本当の幸せを求めて、一緒に歩んでいきましょう。

内閣総理大臣　　菅　　直人

文部科学大臣　　髙木　義明

全ての学校関係者の皆様へ

平成23年3月11日に発生した東日本大震災によりお亡くなりになった多くの方々に心からお悔やみ申し上げます。また、被災された多くの方々に、深甚のお見舞いの意を表します。

地震、津波から20日余りが経ち、新年度が始まりました。子どもたちの教育が再開できるよう、学校はじめ教育関係者、教育委員会が、地域の皆様やボランティアの方たちと手を取り合って、各地で懸命の努力が続けられています。このことにまず、文部科学大臣として深く感謝いたします。

教職員の中には、子どもを守ってお亡くなりになった方もいらっしゃいます。避難所では、子どもたちを守り世話をし続けてくださっている先生方も多くいらっしゃいます。日本の教職員のすばらしさを誇るとともに、亡くなられた方に、改めて哀悼の意を表し、皆様の御努力に感謝いたします。

こうした国難に直面しますと、正に「子どもは国の宝」ということを実感いたします。これからの新しい日本社会を担う、この子どもたちを、どうか悲しみの淵から救い、教え導いてあげてください。

学業をおろそかにすることはできませんが、子どもの笑顔を取り戻すために、スポーツ、文化活動、ボランティア活動、できることは何でも工夫して取り入れていく必要があるでしょう。文部科学省としても、平時以上に柔軟に、皆様の取組を支援していく所存です。

私の子どもたちへの気持ちは、お配りした「新学期を迎える皆（みな）さんへ」という文章の中にしたためました。できるだけ子どもの心に届くように、小学校段階の児童向けと、中学校・高等学校段階の生徒向けとに分けて文章にしました。それでも小学校の低学年には少し難しい文章になったかもしれません。中学校の新入生には、少し厳しい表現になったかもしれません。その部分は、どうか現場の先生方が、更にかみ砕いて、私の気持ちをお伝えいただければと願っています。

生徒向けの文章にも書きましたが、この大震災を通じて日本国と日本社会は、大きな変化を余儀なくされます。大量生産大量消費を前提とするような社会、物質至上主義から、どうやって国のかたちを変えていくのか。自然と共生して

生きてきたはずの日本社会が、その本来の姿を取り戻すためには何が必要なのか。

教育の在り方もまた、改めて問われることとなるでしょう。

生徒たちにお願いしたのと同じように、皆様もまた子どもたちの声に耳を澄ましてください。小さな声、弱い声に耳を傾けることが、新しい教育の出発点です。

被災地以外の教職員の皆様にも、被災地からの転入児童生徒の受入れ、直接的な学校支援や、ボランティア活動などでの被災地支援で、大変御尽力いただいております。本当に感謝いたします。

どうか、全国の教職員が心を一つにして、この難局に当たってください。全ての力を、子どもたちのために結集してください。

最後にもう一つだけ、お願いがあります。

教職員の皆様自身の心のケアです。

皆様が児童・生徒を思う余り、過度な負担がかかってしまっていることを、何よりも心配しております。

被災地の教職員の中には、御家族や同僚を亡くされた方、御自身もまだ避難所生活の方もたくさんいらっしゃるかと思います。そういった皆様も、新学年、授業の再開に向けて御尽力いただいていることには、本当に感謝いたします。しかし、できることなら、一日に1時間でも2時間でも、御自分の時間を作っていただき、心と体に滋養を与えてください。

復旧から復興へ、子どもたちを守り育てていくこの取組は、長期戦となるでしょう。持続可能な復興を、できるところから手を付けていきましょう。

私はもとより、文部科学省職員一同は、今こそ一丸となって、粉骨砕身、現場の皆様を支えていきます。

どうか、子どもたちの明るい笑顔があふれる学校を、もう一度、共に作っていこうではありませんか。そして、子どもたちの元気をもらって、日本全体を、明るく元気にしてきましょう。

御協力を、切にお願い申し上げます。

文部科学大臣　髙木　義明